

『封印切』劇評一覽

—成駒家・松島家・河内家上演の劇評—

金岡郁子

凡例

一、この目録は、明治以降、昭和60年12月までの間に上演された、近松門左衛門原作『冥途の飛脚』の歌舞伎上演の中から、特に上方歌舞伎を代表する三芸統——成駒家、松島家、河内家——の演じた「封印切」の忠兵衛に着目し、その劇評を一覧できるよう取りまとめたものである。付して、準上方芸統の播磨屋系の上演と劇評をも併せ収めた。

一、目録は、上演外題名、上演年月日、上演場所、配役、特記事項、劇評、の順に記した。

配役は、主要な六名を次の略称で表わした。忠一亀屋忠兵衛、

梅一領城梅川、八一丹波屋八右衛門、え一井筒屋おえん、治一槌屋治右衛門、孫一孫右衛門。

劇評については、「劇評」とした次に、(1)劇評題名、(2)執筆者、(3)掲載誌名、(4)発行年月日、(5)巻(年)号、(6)掲載頁の順で記した。掲載頁の表記は論評文全体が掲載されている初めと終わりの頁を記した。

なお、この目録にとりあげた興行は、大阪、京都、東京の上演に限っている。ただし、初代中村鴈治郎初演と思われる名古屋での興行については特にふれた。

一、上演年表の作成にあたって、資料としたものは次のとおりである。

「近松上演目録年表」(細井栄吉編「文学」昭和27年10月号88頁～117頁)

「上演資料集(73)」(国立劇場芸能調査室編・昭和46年12月1日)
「近代歌舞伎年表編纂資料4・大阪興行略年表(1～6)」(国立

江戸の名残りへ * 演劇太平記その51▽（「毎日新聞」・8月25日朝刊）

「女将」へ体当たりへ * 演劇太平記その52▽（「毎日新聞」・9月1日朝刊）

花柳章太郎との恋へ * 演劇太平記その53▽（「毎日新聞」・9月8日朝刊）

燃し銀の役者へ * 演劇太平記その54▽（「毎日新聞」・9月15日朝刊）

島海山とおばこへ * 演劇太平記その55▽（「毎日新聞」・9月22日朝刊）

島原の廓へ * 演劇太平記その56▽（「毎日新聞」・9月29日朝刊）

霜夜のイリガラ鍋▽ * 演劇太平記その57▽（「毎日新聞」・10月6日朝刊）

角屋の脚掲きへ * 演劇太平記その58▽（「毎日新聞」・10月13日朝刊）

屋根裏の太夫部屋へ * 演劇太平記その59▽（「毎日新聞」・10月20日朝刊）

名人に節を教えるへ * 演劇太平記その60▽（「毎日新聞」・10月27日朝刊）

菊之丞と鯉三郎へ * 演劇太平記その61▽（「毎日新聞」・11月3日朝刊）

現代版紙屋治兵衛へ * 演劇太平記その62▽（「毎日新聞」・11月10日朝刊）

前代未聞の珍台本へ * 演劇太平記その63▽（「毎日新聞」・11月17日朝刊）

利休怪談へ * 演劇太平記その64▽（「毎日新聞」・11月24日朝刊）

日本中が震えた日へ * 演劇太平記その65▽（「毎日新聞」・11月27日朝刊）

源氏ドラマ始まるへ * 演劇太平記その66▽（「毎日新聞」・12月4日朝刊）

嵯峨野の秋へ * 演劇太平記その67▽（「毎日新聞」・12月11日朝刊）

末摘花異変へ * 演劇太平記その68▽（「毎日新聞」・12月18日朝刊）

梅幸勘し料へ * 演劇太平記その69▽（「毎日新聞」・12月25日朝刊）

娘死たりNHK娘へ * 演劇太平記その70▽（「毎日新聞」・12月22日朝刊）

昭和61年（一九八六）84歳
角屋の脚掲きへ * 演劇太平記その71▽（「毎日新聞」・1月5日朝刊）

太夫道中の日へ * 演劇太平記その72▽（「毎日新聞」・1月12日朝刊）

春も終わりの壬生狂言へ * 演劇太平記その73▽（「毎日新聞」・1月19日朝刊）

絢爛たるモルモットへ * 演劇太平記その74▽（「毎日新聞」・1月26日朝刊）

神戸港の女親分へ * 演劇太平記その75▽（「毎日新聞」・2月2日朝刊）

利休怪談へ * 演劇太平記その76▽（「毎日新聞」・2月9日朝刊）

利休怪談へ * 演劇太平記その77▽（「毎日新聞」・2月16日朝刊）

劇場芸能調査室近代歌舞伎年表編纂室編・昭和51年3月～56年3月)

「近代歌舞伎年表編纂資料6・京都興行略年表(一・二)」(国立劇場調査室近代歌舞伎年表編纂室編・昭和53年3月・55年3月)

「松竹七十年史」(松竹株式会社編・昭和39年3月20日)

「演劇年鑑」'72～'83(日本演劇協会監修)

1、劇評の収集は次の諸雑誌によった。

「歌舞伎新報」「歌舞伎」「演芸画報」「演芸俱楽部」「新演芸」「道頓堀」「演劇界」「幕間」「上方芸能」

以上の諸誌に劇評が得られない場合に限り、「朝日新聞」(大阪)

の劇評を採録した。

◆成駒家◆

初代 中村鴈治郎

封印切 明治16年5月 末廣座(名古屋) 忠・鴈治郎 梅・松太

郎 八・琥珀郎 え・紫琴 治・嵐吉 *この時、鴈治郎は、中

村宗十郎病氣のため、代役にてこの初役を演じた。(『演藝雑報』明治43年4月1日・4年4号参照)一方、「明治演劇史傳」(上巻)高谷伸著・昭和19年7月18日・建設社の中には、「……この替り狂言『辨當幕』に出さして貰ったのが後世名を成した成

駒屋「紙治」で、……とあり、紙屋治兵衛の代役をつとめたとする。従って、この時の忠兵衛役は確定できない。「劇評」「中

村鴈治郎の當り藝(其二)・傾城恋飛脚(井筒屋)」「演藝雑報」

明治43年4月1日・4年4号・35～38頁

封印切 明治17年1月 天満座(大阪) 忠・鴈治郎 梅・みんし

八・市十郎 *この上演、「演藝雑報」明治43年4月1日・4年

4号による。

封印切 明治18年 興行月未詳 四条北の芝居(京都) 忠・鴈治

郎 梅・璃幸 八・荒五郎 孫・鴈治郎 *この上演、「演藝雑

報」明治43年4月1日・4年4号による。

恋飛脚大和往来一封印切・新口村一 明治28年10月11日初日 浪花

座(大阪) 忠・鴈治郎 梅・巖笑 八・荒五郎 え・珊瑚郎

治・福助 孫・荒五郎 「劇評」「浪花座劇評(下)」藤の家主人

「朝日新聞」明治28年10月22日

恋飛脚一井筒屋・新口一 明治28年12月3日初日 南座(京都)

忠・鴈治郎 梅・巖笑 八・珊瑚郎 孫・吉三郎

恋飛脚大和往来一封切一 明治31年3月14日初日 浪花座(大阪)

忠・鴈治郎 梅・正朝 八・荒太郎 え・成太郎 治・電仙 「劇

評」「浪花座劇評(三)」藤の家「朝日新聞」明治31年3月25日

恋飛脚大和往来 明治36年10月1日初日 辨天座(大阪) 忠・鴈

治郎 他、成太郎、璃琵、吉三郎。

封切 明治37年10月1日初日 辨天座(大阪) 忠・鴈治郎 梅・

玉七 八・卯三郎 え・芳三郎 *上演外題は、「近松上演目録

年表」細井榮吉編(「文学」昭和27年10月号所載)では、恋飛脚大和往来—二幕—とある。「劇評」「辨天座劇評(下)」「朝日新聞」明治37年10月12日

恋飛脚大和往来—井筒屋— 明治39年12月3日初日 南座(京都)

忠・鴈治郎 梅・巣笑 八・延三郎 「劇評」「京の顔見世」山

田桂華「歌舞伎」明治40年2月1日・82号・20~23頁

恋飛脚大和往来—封印切・新口村— 明治40年2月4日初日 中座

(大阪) 忠・鴈治郎 梅・巣笑 八・梅玉 え・徳三郎 治・

玉七 「劇評」「二月の道頓堀(上)」「朝日新聞」明治40年2月11日

恋飛脚大和往来—封印切— 明治42年10月3日初日 歌舞伎座(東

京) 忠・鴈治郎 梅・芝翫 八・猿之助 え・女寅治・八百蔵

「劇評・芸談」「封印切(歌舞伎座十月狂言)」妖星子「演藝雑報」明治42年11月1日・3年12号・70~83頁、「鴈治郎の梅忠」

關根黙庵「歌舞伎」明治42年10月1日・31号・43~45頁、「盛綱と忠兵衛」鴈治郎「演藝雑報」明治42年11月1日・3年12号・

131~134頁、「私の『梅忠』」中村鴈治郎「歌舞伎」明治42年11月

1日・112号・43~43頁、「歌舞伎座合評・二番目戀飛脚大和往来」

伊原青々園、幸堂得知、杉質阿彌、伊坂梅雪「歌舞伎」明治42年

11月1日・112号・54~60頁

恋飛脚大和往来—封印切— 明治45年1月3日初日 浪花座(大阪)

忠・鴈治郎 梅・芝雀 八・市藏 え・成太郎 治・吉三郎

恋飛脚大和往来—封印切・新口村— 大正3年11月 新富座(東京)

忠・鴈治郎 梅・福助 八・八百蔵 え・魁車 治・段四郎 孫

・梅玉 「劇評」「恋飛脚大和往来(新富座顔見世狂言)」鈍太

郎「演藝雑報」大正3年12月1日・1年2号・98~113頁、「鴈治

郎の芝居」小山内蔵「演藝雑報」大正3年12月1日・1年2号・

152~157頁、「つかずはなれず」中村福助「演藝雑報」大正3年12月1日・1年2号・196~197頁、「鴈治郎の忠兵衛」「歌舞伎」大

正3年12月1日・114号・41~41頁、「新富座より」岡田八千代「歌舞伎」大正3年12月1日・114号・11~11頁

封印切 大正3年12月3日初日 南座(京都) 忠・鴈治郎 梅・

芝雀 「劇評」「『梅忠』偏痴氣論」楠山正雄「演藝雑報」大正

4年1月1日・2年1号・13~16頁

恋飛脚大和往来—封印切・新口村— 大正5年6月1日初日 浪花

座(大阪) 忠・鴈治郎 梅・福助 八・段四郎 え・魁車 治・

市蔵 孫・梅玉 「劇評」「六月の浪花座—八劇評—」玖琉

盤「演藝雑報」大正5年7月1日・3年7号・159～163頁、「脇治郎の梅忠」香取染之助「新演藝」大正5年7月1日・1卷5号。

106～111頁

恋飛脚大和往来一封印切 大正8年2月5日初日 浪花座(大阪)

忠・脇治郎 梅・魁車 八・卯三郎 え・福助 治・左國治 「劇

評」「旅人の浪花座見物」岡村柳紅「新演藝」大正8年3月1日

・4卷3号・90～93頁

封印切 大正10年12月1日初日 南座(京都) 忠・脇治郎 他、

福助・魁車。

恋飛脚大和往来一封印切 大正14年1月2日～25日 中座(大阪)

忠・脇治郎 梅・魁車 八・卯三郎 え・福助 治・延若 「劇

評」「大坂初芝居龟屋忠兵衛の輕佻味」右田雄二「演藝雑報」大正

14年2月1日・19年2号・38～40頁、「演藝時評」のうち「脇治

郎と延若」「新演藝」大正14年2月1日・10卷2号・11～11頁

恋飛脚大和往来一封印切 大正15年10月31日初日 歌舞伎座(東

京) 忠・脇治郎 梅・福助 八・中車 え・延女 治・吉三郎

恋飛脚大和往来一封印切 昭和3年3月1日～22日 中座(大阪)

忠・脇治郎 他、魁車、宗十郎、幸四郎。「劇評」「封印切」

問答」高原慶三「道頓堀」昭和3年3月1日・3年18号・29～32

頁、「脇の『梅忠』考」鎌芳堂主人「道頓堀」昭和3年3月1日

・3年18号・32～32頁、「世阿彌の云々批判と脇治郎の梅忠」高

安吸江「道頓堀」昭和3年3月1日・3年18号・33～35頁、「脇

治郎の「忠兵衛」」石割松太郎「道頓堀」昭和3年4月1日・3

年19号・52～53頁

恋飛脚一封印切 昭和7年1月31日初日 中座(大阪) 忠・脇

治郎 梅・福助 八・延若 え・魁車 *2月10日より、脇治郎

病気のため延若が代役。「劇評」「脇治郎の『忠兵衛』」みの字

「演藝雑報」昭和7年3月1日・26年3号・45～45頁、「封印

切」演出の道」高谷伸「道頓堀」昭和7年2月1日・7年65号・

6～8頁、「脇治郎の至藝と『梅忠』に對する私の註文」富田泰

彦「道頓堀」昭和7年2月1日・7年65号・16～17頁

恋飛脚大和往来一封印切 大正6年1月12日初日 南座(京都)

忠・扇雀 梅・長五郎 え・福太郎 *第三回少年歌舞伎

二代目 中村脇治郎

恋飛脚大和往来 井筒屋 大正6年1月12日初日 南座(京都)

忠・扇雀 梅・長五郎 え・福太郎 *第三回少年歌舞伎

恋飛脚大和往来 大正8年2月11日初日 歌舞伎座(京都) 忠・

扇雀 恋飛脚大和往来一封印切 大正8年5月10日初日 歌舞伎座(京

都) 忠・扇雀 梅・福太郎 八・喜久太郎 え・延童 治・秀

恋飛脚大和往来一封印切一 大正8年6月9日～17日 浪花座(大阪) 忠・扇雀 梅・福太郎 八・秀郎 え・延童 治・蓮藏

〔劇評〕「大阪青年歌舞伎・俳優の活躍」K生「道頓堀」大正8年7月1日・5号・8～8頁、「座頭の中ばん」古井亭一「新演藝」大正8年7月1日・4卷7号・92～94頁

冥途の飛脚一上中下一 大正10年3月31日初日 明治座(京都) 忠・扇雀 梅・福太郎 八・秀郎 孫・扇雀門

恋飛脚大和往来一封印切一 大正15年1月1日初日 南座(京都) 忠・扇雀 梅・新升 八・紋三郎 え・当之助 治・石田三郎 孫・荒五郎

〔劇評〕「南座の『恋飛脚大和往来』扇雀の忠兵衛」高原慶三「演藝雑報」大正15年2月1日・20年2号・118～119頁、「芝居物語」梅川忠兵衛「南座一月狂言」—松長照夫「演藝雑報」大正15年2月1日・20年2号・120～121頁

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和7年1月1日～15日 京都座(京都) 忠・扇雀 梅・成太郎 八・吉三郎 え・延童 治・右田治都 忠・扇雀 梅・成太郎 八・吉三郎 え・霞仙 治・右田治都 忠・扇雀 梅・成太郎 八・吉三郎 え・狂歌 治・段四郎 恋飛脚大和往来一封印切一 昭和11年1月1日初日 第一劇場(東京) 忠・扇雀 梅・松蓮 八・我當 え・成太郎 治・段四郎

〔劇評〕「新第一劇場見物記」安部豊「演藝雑報」昭和11年2月

恋飛脚大和往来一封印切一 大正8年6月9日～17日 浪花座(大阪) 忠・扇雀 梅・福太郎 八・秀郎 え・延童 治・蓮藏

〔劇評〕「大阪青年歌舞伎・俳優の活躍」K生「道頓堀」大正8年7月1日・5号・8～8頁、「座頭の中ばん」古井亭一「新演藝」大正8年7月1日・4卷7号・92～94頁

冥途の飛脚一上中下一 大正10年3月31日初日 明治座(京都) 忠・扇雀 梅・福太郎 八・秀郎 孫・扇雀門

恋飛脚大和往来一封印切一 大正15年1月1日初日 南座(京都) 忠・扇雀 梅・新升 八・紋三郎 え・当之助 治・石田三郎 孫・荒五郎

〔劇評〕「南座の『恋飛脚大和往来』扇雀の忠兵衛」高原慶三「演藝雑報」大正15年2月1日・20年2号・118～119頁、「芝居物語」梅川忠兵衛「南座一月狂言」—松長照夫「演藝雑報」大正15年2月1日・20年2号・120～121頁

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和7年1月1日～15日 京都座(京都) 忠・扇雀 梅・成太郎 八・吉三郎 え・霞仙 治・右田治都 忠・扇雀 梅・成太郎 八・吉三郎 え・狂歌 治・段四郎 恋飛脚大和往来一封印切一 昭和11年1月1日初日 第一劇場(東京) 忠・扇雀 梅・松蓮 八・我當 え・成太郎 治・段四郎

〔劇評〕「新第一劇場見物記」安部豊「演藝雑報」昭和11年2月

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和21年6月10日～12月10日 1卷2号・2～3頁

冥途の飛脚 昭和22年3月4日初日 歌舞伎座(大阪) 忠・扇治郎 梅・舞助 八・我當 〔劇評〕「三月の三座寸感」村瀬清一「幕間」昭和22年4月5日～6月10日 2卷4号・27～27頁

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和23年3月1日～26日 中座(大阪)

1日・30年2号・25～26頁、「若手談話室 父の古い型」中村扇雀「演藝雑報」昭和11年2月1日・30年2号・28～28頁

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和11年2月1日～25日 歌舞伎座

(大阪) 忠・扇雀 梅・松蓮 八・我當 え・成太郎 治・勘弥 〔劇評〕「ライカ行脚(青年歌舞伎印象)」大橋孝一郎「道頓堀」昭和11年3月1日・11年114号・32～33頁

恋飛脚大和往来一封印切・新口村一 昭和18年9月1日初日・角座

(大阪) 忠・扇雀 梅・雄助 八・吉三郎 え・錦吾 孫・源十郎 〔劇評〕「大阪二座の合同劇」高谷伸「演藝雑報」昭和18年10月1日・37年10号・9～9頁

冥途の飛脚 昭和22年3月4日初日 歌舞伎座(大阪) 忠・扇治郎 梅・舞助 八・我當 〔劇評〕「三月の三座寸感」村瀬清一「幕間」昭和22年4月5日・2卷4号・27～27頁

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和23年3月1日～26日 中座(大阪)

忠・鴈治郎 八・吉三郎 え・成太郎 治・瑠珪

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和27年1月1日～25日 歌舞伎座

・82～83頁

(大阪) 忠・鴈治郎 梅・富十郎 八・舞助 え・菊次郎 治
・三升 「劇評」「大阪歌舞伎座・初春狂言」山本修二「演劇界」

昭和27年2月1日・10巻2号・40～42頁、「惜しい」「亂菊物語」

——大阪歌舞伎座初春興行—— 北岸佑吉「幕間」昭和27年2月

1日・7巻2号・78～79頁

冥途の飛脚 昭和27年9月1日～25日 歌舞伎座(大阪) 忠・鴈

治郎 梅・舞助 八・舞助 *近松生誕三百年記念 「劇評」「近
松生誕三百年」北岸佑吉「演劇界」昭和27年10月1日・10巻11号

・51～53頁、幕間隨想「近松原作上演の喜び」中村鴈治郎「幕間」

昭和27年10月1日・7巻10号・41～42頁、「封印切」の偶然

歌舞伎を扼殺するもの 中 山口廣一「幕間」昭和27年10月1日

・7巻10号・44～47頁、「大近松三百年祭記念興行・九月の大阪

歌舞伎座」林秀雄「幕間」昭和27年10月1日・7巻10号・76～77

頁

恋飛脚大和往来一封印切・道行一 昭和29年9月3日～26日 歌舞

伎座(大阪) 忠・鴈治郎 梅・扇雀 八・吉三郎 え・菊次郎

治・仁左衛門 「劇評」「揺らぐ関西歌舞伎」井上甚之助「演劇
界」昭和29年10月1日・12巻11号・56～58頁、「鶴之助を惜しむ

・大阪歌舞伎座評」沼艸雨「幕間」昭和29年10月1日・9巻10号

恋飛脚大和往来一封印切・道行一 昭和29年11月2日～26日 帝国

劇場(東京) 忠・鴈治郎 梅・扇雀 八・吉三郎 え・芝鶴
治・仁左衛門 「劇評」「帝劇・第二部・かくありたきもの」大
木豊「演劇界」昭和29年12月1日・12巻13号・49～52頁、「帝劇
最終興行——十一月帝劇問答——」本多裕「幕間」昭和29年12月

1日・9巻12号・80～81頁

恋飛脚大和往来一封印切・新口村一 昭和43年4月1日～25日 歌

舞伎座(東京) 忠・鴈治郎 梅・扇雀 八・三津五郎 え・訥
升・治・吉三郎 孫・仁左衛門 「劇評」「ドラマと花と」河竹

登志夫「演劇界」昭和43年5月1日・26巻5号・24～26頁

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和44年5月1日～25日 新歌舞伎座

(大阪) 忠・鴈治郎 梅・菊之助 八・勘三郎 え・梅幸 治
・左団次 「劇評」「大阪の顔見世」沼艸雨「演劇界」昭和44年

6月1日・27巻7号・29～30頁

中村扇雀

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和33年8月28日～30日 毎日ホール

(大阪) 忠・扇雀 梅・我童 八・鴈治郎 え・成太郎 治・

高砂屋福助 *七人の会 「劇評」「上方歌舞伎 復興の火は燃え始めた（「七人の会」結成記念公演合評会）」北岸佑吉、大鋸時生、山本修二「幕間」昭和33年10月1日・13巻10号・82～89頁

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和42年6月1日～23日 東横ホール
 （東京） 忠・扇雀 梅・田之助 八・竹之丞 え・成太郎 治・菊次郎 「劇評」「期待外れの奮闘公演」水落深「演劇界」昭和42年7月1日・25巻7号・25～27頁

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和49年3月3日～27日 明治座（東京） 忠・扇雀 梅・秀太郎 八・松若 え・菊次郎 治・市川小太夫 「劇評」「流れは動き始めて居る」藤巻透「演劇界」昭和49年4月1日・32巻4号・21～23頁

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和50年6月1日～25日 中座（大阪） 忠・扇雀 梅・秀太郎 八・松若 え・雄助 治・璃珏 「上方歌舞伎」二人の旗手」長谷川幸延「演劇界」昭和50年7月1日・33巻7号・26～28頁

冥途の飛脚 昭和53年7月4日～16日 三越劇場（東京）、昭和53年7月19日～30日 三越劇場（大阪） 忠・扇雀 梅・徳三郎

八・我當 「劇評」「近松復元への在り方」戸部銀作「演劇界」昭和53年8月1日・36巻8号・30～32頁、「原作の真髓に近づいた『冥途の飛脚』」栗山和義「上方芸能」昭和53年11月10日・59

号58～59頁

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和56年6月4日～28日 中座（大阪） 忠・扇雀 梅・藤十郎 八・我當 え・徳三郎 治・寿美蔵 「劇評」「世話物と舞踊と新歌舞伎」藤井康雄「演劇界」昭和56年7月1日・39巻8号・32～35頁、「近松の今日性と綺堂の物語性」栗山和義「上方芸能」昭和56年10月10日・73号・62～63頁

恋飛脚大和往来一封印切一 昭和58年11月30日～12月25日 南座（京都） 忠・扇雀 梅・門之助 八・孝夫 え・宗十郎 治・芦燕 「劇評」「『先代狂』が最高」藤井康雄「演劇界」昭和59年1月1日・42巻1号・36～39頁

冥途の飛脚 昭和60年8月29日～31日 浅草公会堂（東京）、昭和60年9月3日～8日 国立文楽劇場（大阪） 忠・扇雀 梅・秀太郎 八・我當 「劇評」「△冥途の飛脚△合評 近松座第四回公演 研究者・制作者・劇評家の語る近松作劇術の魅力」諏訪春雄・中山幹雄・水落深「演劇界」昭和60年10月1日・43巻11号・73～79頁

冥途の飛脚 昭和53年7月4日～16日 三越劇場（東京）、昭和53年7月19日～30日 三越劇場（大阪） 忠・扇雀 梅・徳三郎

八・我當 「劇評」「近松復元への在り方」戸部銀作「演劇界」昭和53年8月1日・36巻8号・30～32頁、「原作の真髓に近づいた『冥途の飛脚』」栗山和義「上方芸能」昭和53年11月10日・59

♪ 松 島 家 ♪

九代目 片岡仁左衛門

恋飛脚大和往来 明治4年5月吉日初日 竹田芝居（大阪） 忠・

我當 梅・友右衛門 孫・雀右衛門

日 浪花座（大阪） 忠・我當 梅・芝雀 八・琥珀郎 え・立
花 治・延三郎 孫・我當

「日新聞」明治32年10月15日

恋飛脚大和往来—二幕— 明治37年1月1日初日 深川座（東京）

忠・我當 梅・梅幸 治・八百藏 孫・我當

恋飛脚大和往来—二幕— 明治37年1月13日初日 歌舞伎座（京都）

忠・我當 梅・梅幸 八・市藏 え・菊三郎 治・八百藏 孫・

我當 「劇評」「片岡我當の忠兵衛」との字「歌舞伎」明治37年

2月1日・45号・13~22頁、「歌舞伎座合評（下）」關根黙庵、

眞如女史、久保田世音、三木竹二「歌舞伎」明治37年2月1日・
45号・22~31頁

恋飛脚大和往来—封印切— 新口村— 明治13年1月13日初日 猿若
座（東京） 忠・我童 梅・百之助 八・市藏 え・紫若 治・
高砂屋福助 孫・我童 「劇評」寄書「中村座略評」六二連・梅

素哉、高須萬燕「歌舞伎新報」明治20年11月2日・836号・3~3

頁

恋飛脚—上下— 明治23年11月1日初日 角座（大阪） 忠・我童

十二代目 片岡仁左衛門

恋飛脚大和往来 明治41年2月 新富座（東京） 忠・我童 梅・

松三郎 八・芝鶴 え・かほる 治・琥珀

恋飛脚大和往来—封印切— 明治45年7月14日初日 市村座（東京）

忠・我童 梅・条三郎 八・卯三郎 え・樂之助 治・三津五郎

「劇評」「市村座」青々園「歌舞伎」大正元年9月1日・117号・

103~104頁、「市村座劇評」水谷幻花「演藝俱樂部」明治45年8月
1日・1卷5号・165~167頁

十一代目 片岡仁左衛門

恋飛脚大和往来—井筒屋— 明治20年1月 戎座（大阪） 忠・我

當 梅・みんし 八・琥珀郎 え・松太郎 治・雀右衛門

梅忠 明治21年1月 戎座（大阪） 忠・我當

恋飛脚大和往来—新町封印切— 新口村道行— 明治32年10月8日初

冥途の飛脚—三幕— 大正4年2月6日初日 明治座（京都） 忠

・我童 梅・廣三郎 八・徳三郎 え・中村紫香 孫・卯三郎

梅川忠兵衛・冥途の飛脚—淡路町より封印切— 大正11年3月 本

郷座（東京） 忠・我童 梅・亀蔵 八・吉三郎 え・愛之助

「劇評」 「本朝廿四孝」と「冥途の飛脚」 高安月郊「演藝畫

報」 大正11年4月1日・9年4号・29～32頁、「本郷座の『冥途

の飛脚』」近松秋江「新演藝」大正11年4月1日・7巻4号・20

～23頁

冥途の飛脚—上下— 昭和3年6月3日初日 角座（大阪） 忠・

我童 梅・霞仙 八・寿三郎 「劇評」 「角座の晩夜」森ほのは

「演藝畫報」昭和3年7月1日・22年7号・26～28頁、「芝居見冥

途の飛脚」内山惣十郎「道頓堀」昭和3年6月1日・3年21号・

76～79頁、「冥途の飛脚のことども」Y生「道頓堀」昭和3年6

月1日・3年21号・79～79頁、「水無月の芝居、我童壽三郎等の

原作「冥途の飛脚」に就て」木谷蓬吟「道頓堀」昭和3年7月1

日・3年22号・36～38頁

冥途の飛脚—鬼屋・堀端・越後屋— 昭和7年4月1日初日 新歌

舞伎座（東京） 忠・我童 梅・時蔵 八・宗十郎 「劇評」 「冥

途の飛脚を観て」本間久雄「演藝畫報」昭和7年5月1日・26年

5号・2～4頁

恋飛脚大和往来—封印切— 昭和13年11月9日初日 國際劇場（東

京） 忠・仁左衛門 梅・時蔵 八・八百蔵 え・板東勝太郎 「劇

評」 「狼之助大奮闘 國際劇場見物記」利倉幸一「演藝畫報」昭

和13年12月1日・32年12号・18～19頁

十三代目 片岡仁左衛門

恋飛脚大和往来—封印切・新口村— 昭和28年10月4日～25日 中

座（大阪） 忠・仁左衛門 梅・雛助 八・吉三郎 え・錦吾

治・三右衛門 孫・訥子 「劇評」 「大阪中座『梅忠』の安定

感」原田矢継子「演劇界」昭和28年11月1日・11巻12号・64～65

頁、「受けた通俗の味——十月の『中座歌舞伎』——」辻田幸一

「幕間」昭和28年11月1日・8巻11号・84～85頁

恋飛脚大和往来—封印切— 昭和42年6月30日～7月3日 南座

（京都） 忠・仁左衛門 梅・我童 八・高砂屋福助 え・成太

郎 治・吉三郎 *仁左衛門歌舞伎 「劇評」 「南座の『左衛門

歌舞伎』劇評 忠兵衛の笑顔」山口廣一「演劇界」昭和42年8月

1日・25巻8号・121～124頁

恋飛脚大和往来—封印切・新口村— 昭和49年8月27日～29日 朝

日座（大阪） 忠・仁左衛門 梅・秀太郎 八・孝夫 え・徳三

郎 治・我當 孫・仁左衛門 「劇評」 「重大きへの検討が欲しか

つた大舞時生「演劇界」昭和49年10月1日・32巻11号・66～67頁

〔追記〕なお、十三代目片岡仁左衛門は封印切の型について、次の

ような証明な記録を残している。

「対談集「歌舞伎の型」3・恋飛脚大和往来」十三世片岡仁左衛門述（国立劇場芸能調査室発行・昭和48年10月1日）

河内家

初代 実川延若

恋飛脚大和往来 明治6年11月 若太夫芝居（大阪） 延若、秀郎、
狂丸、市川赤助。

片岡幸夫

恋飛脚大和往来一封印切 昭和48年6月4日～28日 新橋演舞場

（東京） 忠・孝夫 梅・秀太郎 八・我當え・源之助 治・

好太郎 「劇評」「台詞が今後の課題の若手歌舞伎」志野葉太郎

「演劇界」昭和48年7月1日・31巻8号・16～19頁

恋飛脚大和往来一封印切 昭和52年2月2日～26日 新橋演舞場

（東京） 忠・孝夫 梅・玉三郎 八・勘三郎 え・藤十郎 治・

・好太郎 「劇評」「狂言立てに一工夫を」和角仁「演劇界」昭

和52年3月1日・35巻3号・28～30頁

恋飛脚大和往来一封印切 昭和58年4月4日～24日

國立小劇場（東京） 忠・孝夫 梅・雀右衛門 八・我當え・

我童・治・吉五郎 孫・仁左衛門 「劇評」「二階座敷からよく

なった忠兵衛」如月青子「演劇界」昭和58年5月1日・41巻5号

・26～28頁

二代目 実川延若

恋飛脚大和往来一封印切・道行 明治34年2月28日初日 歌舞伎
座（京都） 延二郎、時蔵、雀三郎。

恋飛脚大和往来一封印切 明治35年2月15日初日 宮戸座（東京）

忠・延二郎 梅・銀之助 八・勘五郎 え・雀三郎 治・納子

封切 明治35年12月31日初日 浪花座（大阪） 忠・延二郎 梅・

かほる 八・我當え・徳三郎 治・延三郎 *

上演回題は、「近松上演目録年表」（細井榮吉編）では、恋飛脚大和往来一封

簡屋の場」とある。 「劇評」「浪花座略評」「朝日新聞」明治

36年1月10日

恋飛脚大和往来 明治37年10月31日初日 歌舞伎座（京都） 忠・

延二郎 他、延三郎、我童、正若。 *「歌舞伎年表」には、11

月1日初日、上演外題は、梅忠とある。

恋飛脚大和往来一封印切・新口村一 明治40年5月3日初日 東京

- 座（東京） 忠・延二郎 梅・宗之助 八・黒谷市藏 え・国吉 治・芝鶴 孫・延二郎 「劇評」「五月の劇壇」のうち「東京座」
三木竹二「歌舞伎」明治40年6月1日・86号・122~124頁
冥途の飛脚—上_下— 明治43年11月2日初日 中座（大阪） 忠・
延二郎 梅・成太郎 八・脇治郎 え・嵐鶴徳 孫・卯三郎 「劇
評」「大阪中座の十一月狂言」中山白峯「演藝叢報」明治43年12
月1日・4年12号・151~154頁
恋飛脚大和往来—封印切— 大正3年10月17日初日 堂島座（大阪）
忠・延二郎 梅・嵐廣三郎 八・中村嘉七 え・寿三郎 治・浅
尾閑十郎
恋飛脚大和往来—封印切— 大正6年3月3日初日 中座（大阪）
忠・延若 梅・梅幸 八・卯三郎 え・蓮女 治・宗十郎 「劇
評」「中座と浪花座」青一味「演藝叢報」大正6年4月1日・4
年4号・40~44頁、募集原稿・芝居評判のうち「中座の合同劇」
柴井好男「演藝叢報」大正6年4月1日・4年4号・137~139頁、
募集原稿・芝居評判のうち「中座の『壇坂』と『封印切』」福島
秋生「演藝叢報」大正6年4月1日・4年4号・139~143頁、「炬
燈が問題になった梅忠（中座三月狂言）」香取梁之助「新演藝」
大正6年4月1日・2卷4号・110~111頁
恋飛脚大和往来—封印切— 大正6年6月3日初日 明治座（東京）
忠・延若 梅・芝雀 八・段四郎 え・秀調 治・左團次 「劇
評」「樂屋訪問記」のうち「延若丈」鈴木春浦「演藝叢報」大正
6年7月1日・4年7号・63~65頁、「久松町より」山の手の女
行脚」のうち「六月三日」染之助「新演藝」大正6年7月1日・
2卷7号・143~143頁
恋飛脚大和往来—井筒屋— 大正13年10月1日初日 松竹座（東京）
忠・延若 梅・松萬 八・大吉 え・亀藏 治・源之助 *上演
外題は、「松竹七十年史」では、梅川忠兵衛—封印切—とある。
「劇評」「封切と五右衛門」山崎紫紅「演藝叢報」大正13年11月
1日・18年11号・70~71頁
恋飛脚大和往来—封印切— 昭和8年4月1日初日 東京劇場（東
京） 忠・延若 梅・我童 八・猿之助 え・秀調 治・壽美蔵
「劇評」「東劇初日廊下談」錦竹舎主人記「演藝叢報」昭和8年
5月1日・27年5号・26~28頁
- 三代目 寛川延若
恋飛脚大和往来—封印切— 昭和32年6月1日~23日 歌舞伎座
(大阪) 忠・延二郎 梅・友右衛門 八・仁左衛門 え・菊次
郎 治・又一郎 「劇評」「企画があまい 大阪歌舞伎座」山口

廣一『演劇界』昭和32年7月1日・15巻8号・77~80頁、幕間隨想「忠兵衛の相続」寒川延二郎「幕間」昭和32年7月1日・12巻7号・40~42頁、「友右衛門活躍」沼津雨「幕間」昭和32年7月

1日・12巻7号・86~87頁

封印切・新口村 昭和34年10月7日~28日 東横ホール(東京)

忠・延二郎 梅・友右衛門 八・八百蔵 え・訥升 治・秀調

孫・延二郎 「劇評」「お国と五平」などなど―十月の東横ホ

ールを観る―利倉幸一『演劇界』昭和34年11月1日・17巻11

号・68~71頁、ひとり一題「亀尾忠兵衛」寒川延二郎「演劇界」

昭和34年11月1日・17巻11号・101~102頁、「三優それに大活

躍・成功した東横の若手歌舞伎」渡辺義三郎「幕間」昭和34年11

月1日・14巻11号・73~75頁

恋飛脚大和往来―封印切― 昭和35年1月2日~26日 中座(大阪)

忠・延二郎 梅・友右衛門 八・仁左衛門 え・菊次郎 治・訥

子 「劇評」「あります・ありません」権藤芳一『演劇界』昭和35年2月1日・18巻2号 74~75頁、「寿海の『尾上伊太八』中

座・花梢会の初春公演」関逸雄「幕間」昭和35年2月1日・15巻2号・70~72頁

恋飛脚大和往来―封印切― 昭和38年3月1日~25日 歌舞伎座

(東京) 忠・延若 梅・歌右衛門 八・勘三郎 え・宗十郎

治・猿之助 *寒川延若襲名大歌舞伎 「劇評」「中心は『封印切』」三宅三郎「演劇界」昭和38年4月1日・21巻4号・22~24頁

恋飛脚大和往来―封印切― 昭和38年9月1日~25日 歌舞伎座

(大阪) 忠・延若 梅・歌右衛門 八・勝治郎 え・菊次郎

治・又一郎 「劇評」「大阪の味・味」山口廣一『演劇界』昭和38年10月1日・21巻10号・26~27頁

恋飛脚大和往来―封印切― 昭和46年12月3日~25日 国立劇場

(東京) 忠・延若 梅・芝翫 八・竹之丞 え・歌右衛門 治

・菊次郎 「劇評」「国立かぶきの一つの崩壊」郡司正勝「演劇界」昭和47年1月1日・30巻1号・14~16頁

恋飛脚大和往来―封印切― 昭和51年10月2日~26日 歌舞伎座

(東京) 忠・延若 梅・芝翫 八・富十郎 え・我童 治・芝

鶴 「劇評」「大谷賞はまだも見おくりか」野村喬「演劇界」昭和51年11月1日・34巻12号・25~27頁

恋飛脚大和往来―封印切― 昭和59年10月29日~11月25日 文化庁

移動芸術祭歌舞伎公演 忠・延若 梅・芝翫 八・辰之助 え・

東藏 治・吉五郎

恋飛脚大和往来―封印切― 昭和60年6月1日~25日 中座(大阪)

忠・延若 梅・松江 八・富十郎 え・東藏 治・吉五郎 「劇

評」「結局は——「封印切」」北川忠彦『演劇界』昭和60年7月

1日・43巻8号・34~37頁

♪播磨家♪

三代目 中村歌六

恋飛脚大和往来 明治15年6月6日初日 南側芝居（京都） 忠・

時蔵 梅・正朝 八・松寿

梅忠一播意氣地廊封切 明治16年1月吉日初日 中の芝居（大阪）

忠・時蔵 梅・正朝 孫・時蔵 「劇評」雑報「在阪種彦翁の寄

書中の芝居一口評……」『歌舞伎新報』明治16年1月22日・29号
・5~5頁

恋飛脚大和往来—上下— 明治16年6月 南座（京都） 忠・時蔵

梅・梅寿 孫・時蔵

恋飛脚大和往来 明治23年1月1日初日 吾妻座（東京） 忠・時

蔵 梅・其答 八・畠太郎 え・時朝 治・松寿 「劇評」雑報

『歌舞伎新報』明治23年1月8日・10(号・頁表記なし)

梅忠 明治23年10月31日~11月16日 坂井座（京都） 時蔵一座

恋飛脚大和往来 明治26年11月27日初日 朝日座（大阪） 忠・時

蔵 梅・鬼丸 八・伝五郎 「劇評」音信「大阪劇場（去廿九

日發）」『歌舞伎新報』明治26年12月3日・1至8号・7~7頁、

しば 治・団之助 孫・吉右衛門 「劇評」「東京都劇場だより」

「朝日座一口評」「朝日新聞」明治26年12月7日

恋飛脚大和往来一封印切・道行一 明治34年2月28日初日 歌舞伎

座（京都） 時蔵、延二郎、雀三郎。

恋飛脚大和往来一封印切・新口村一 明治39年3月1日初日 宮戸

座（東京） 忠・時蔵 梅・源之助 え・鬼丸 孫・時蔵

初代 中村吉右衛門

恋飛脚大和往来一封印切・新口村一 明治43年3月3日初日 市村

座（東京） 忠・吉右衛門 梅・芙蓉 八・駒助 孫・歌六 「劇

評」「三月の劇壇」大恩堂満潭「演藝雑報」明治43年4月1日・

4年4号・156~158頁、「市村座の半日」時雨女「歌舞伎」明治43

年4月1日・11号・67~69頁、「市村座と蓬萊座の比較評」伊坂

梅雪「歌舞伎」明治43年4月1日・11号・70~71頁

恋飛脚大和往来一井筒屋・新口村一 昭和4年10月1日初日 明治

座（東京） 忠・吉右衛門 梅・時蔵 八・友右衛門 孫・吉右

衛門 *途中、吉右衛門病気につき、忠・三津五郎、孫・友右衛

門

恋飛脚大和往来一封印切・新口村一 昭和23年1月2日~26日 帝

国劇場（東京） 忠・吉右衛門 梅・芝翫 八・団之助 え・も

しば 治・団之助 孫・吉右衛門 「劇評」「東京都劇場だより」